

湘南藤沢学会 「研究助成金 2018」

(B) 研究会合宿・研究会レベルでの交流活動 成果報告書

【活動名称】 研究会合宿

【申請者】 看護医療学部・石川志麻

【活動目的】「しまびと元気応援団」の活動見学やメンバーへのインタビューを通じ、学生が「住民主体の活動の推進力となるものは何か」について学びを得ることを目的とする。また行政保健師から「住民主体の活動を支える公衆衛生看護活動に必要なものは何か」についても学びを得ることも目的とする。

【活動内容】

○2018年9月27日

佐渡市小木地区の「よれっ茶屋もやい」で行われている高齢者の交流活動の見学と世話人へのインタビューを行った。この日は70代から90代の女性8人が参加しており、世話人8人と共にリズムに合わせた脳トレ、談話をした。参加者の1名が語り部としての活動をしており、佐渡の昔話をしてくださった。佐渡市保健師が案内をしてくださり、世話人の方が以前は健康推進員としての活動をしており、その頃から馴染みの関係があったことを説明してくれた。世話人の方が、高齢者が身近な場で運動や談話ができるようにと活動を広げていくことを保健師はサポート役として支援し、世話人は「自分たちも楽しいのでこの活動が続いている」と語り、世話人自らの健康にも寄与している活動であることが分かった。(写真1)

○2018年9月28日

午前は市保健師から「しまびと元気応援団」の沿革や活動内容の説明を受けた。「しまびと元気応援団」は佐渡市の「健幸さど21」計画の目標を達成するための市民グループであり、平成18年から活動を行っている。応援団として登録して活動を行うと会場使用料の減免は受けられるが、それ以上の金銭的補助はない。住民が「自分達でできる」「自分たちのやりたいこと」を行って楽しみや遣り甲斐を感じるだけでなく、5人以上のグループで活動する、周りの人への元気のおすそ分けをする、健幸さど21計画に貢献するという、応援団の約束事を明確に提示して合意のもとで活動を展開してきたことも活動の拡大・継続要因となっていることを学んだ。

午後は「しまびと元気応援団」が12月に実施する祭りに向けた実行委員会へ参加した。各グループがやりたいことだけでなく、多くの住民に感動してもらえる祭りにするために他のグループへ期待したいことや、皆で行うべきことを小グループで話して共有するというプロセスを数段階繰り返すディスカッションに入れて頂いた(写真2-4)。

19~20時に金井コミュニティセンターにて、4人の学生が今後実施する研究計画を発表し、意見交換を行う時間を持った。

○2018年9月29日

佐渡金山や旧拘置所跡の見学をし、佐渡市の文化的背景を学んだ。市役所周辺には病院や商店があったが、車で15分ほど移動すると坂が多く、道幅は軽自動車1台がかろうじて通れる道幅である場所が多かった。介護サービスなどの社会資源は地域差があることを把握できた。

【活動成果を今後どのように活かすか】

住民主体の活動や、その活動を支援する行政保健師の活動について具体的な活動に参加させて頂くことができた。

各学生の研究テーマの要素として、住民が自らの健康の推進に向けた行動を後押しする支援を明らかにするという要素が含まれていた。本合宿中で「住民の主体的な活動を支援する保健師の活動」では、行政計画を立案する段階で広く意見を聞く市民会議を開催するだけでなく、主体的な活動を牽引していく力のある住民に意図的に参加してもらうことや、時間がかかっても住民が自己選択・自己決定していくプロセスを大切にすることなどがあることを学べた。この学びは学生の研究を推進していく上での後押しとなるものと考えている。

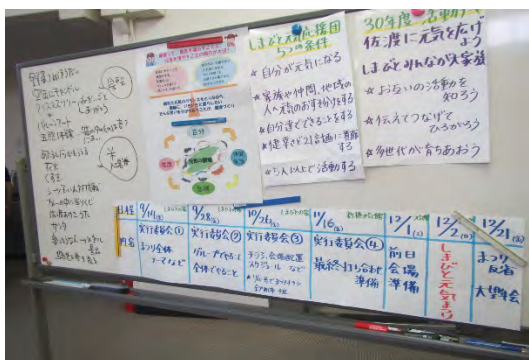
支援対象者（個人・集団）の生活特性や文化的背景を踏まえ、自己選択・自己決定していくプロセスを支える保健師の支援の在り方について、今後研究会の活動を一層活発なものとしていきたい。



(写真1:よれっ茶屋もやい)



(写真2:しまびと元気応援団 話し合い)



(写真3:話し合い経過)



(写真4:話し合い振返り)